

第1回 パラダイムと原則 インサイド・アウト

あなたは、なぜ「7つの習慣」を学ぼうと思いましたか？

もともとはえいこさんがいい！というのでやろうと思い、なんでも受け入れていこうと思い始めたのですが、たしかに受ければ受けるだけ毎回新たな発見と学びを得られるので継続させていただきました。-----

インサイド・アウト



P.3
～ P.15-L.1

(P.14) 第二の偉大さ（才能に対する社会的評価）に恵まれていても、第一の偉大さ（優れた人格を持つこと）を欠いている人は多いものである。人格こそが第一の偉大さであり、社会的評価はその次にくる第二の偉大さである。

Work 1

あなたに良い影響を与えてくれた人	その人はあなたにどんな良い影響を与えてくれましたか？	
	個性主義的な側面	人格主義的な側面
やはたえいこさん 氏名	コミュニケーションスキルのトレーニング	7つの習慣への導き
ゆういちろうくん 氏名	自身の見せ方	人格主義的であることは、どんなものよりも尊い。
西野さん 氏名	ビジネスにおけるテクニカルな部分とエンタメ性の追求	大人の嫉妬や渦巻くどろどろとした気持ち

上記を書いてみて、あらためて個性主義と人格主義についてどんなことを感じましたか。

個性主義的な側面と人格主義的な側面

パラダイムの力・パラダイムシフトの力

 P.15-L.2
～ P.27

(P.15)「7つの習慣」は、効果的に生きるための基本的な原則を具体的なかたちにしたものである。「7つの習慣」のどれもが基礎であり、第一の偉大さにつながるものである。これらの習慣を身につけるのは、継続的な幸福と成功の土台となる正しい原則を自分の内面にしっかりと植えつけることに他ならない。

しかし、「7つの習慣」を本当に理解するためには、まず自分のパラダイムを理解し、パラダイムシフトの方法を知らなければならない。

(P.23) 自分の頭の中にある地図、思い込み、つまり基本的なパラダイムと、それによって受ける影響の程度を自覚し、理解するほど、自分のパラダイムに対して責任を持てるようになる。


(P.27) パラダイムと人格を切り離すことはできない。人間においては、あり方は見方に直結するのであり、どう見るとどうあるかは強い相関関係で結ばれているからだ。あり方を変えずに見方を変えることはできない。その逆もまたしかりだ。

Work2

パラダイムシフトに関しては、短期的、劇的な地下鉄での例、長期的に徐々に変化した子育ての例が本の中で紹介されています。あなたのパラダイムがシフトした経験について考えてみましょう。あなたのパラダイムシフトはどのようなものだったのでしょうか。パラダイムシフトしたことで、あなたの気持ちや行動や状況にどのような変化が起きましたか？

目的地に辿り着くには飛行機のチケットをとって飛行機に乗ればいい。息子のある幼稚園に入園させるときに36時間並びました。そのチケットをとる、並ぶことで目的地に到達する。-----

原則中心のパラダイム

 P.28
～ P.42-L.12

(P.28) 人格主義の土台となる考え方は、人間の有意義なあり方を支配する原則が存在するということである。自然界に存在する引力の法則などと同じように、人間社会にもまた、時間を超えて不変であり、異論を挟む余地のない、普遍的にして絶対的な法則があるのだ。

(P.32) 私たちの頭の中の地図またはパラダイムをこれらの原則、自然の法則に近づけるほど、地図は正確になり、機能的に使えるようになる。正しい地図は、個人の効果性、人間関係の効果性に計り知れない影響を与える。態度や行動を変える努力をいくらしても追いつかないほど、大きな変化を遂げられるのである。

Work3

1 (1) あなたの仕事や生活の中でうまくいっていることは何でしょうか？（特に問題なくすすんでいることや良好な人間関係、等）

レストランのお仕事

(2) それは、どんな原則に則っているからうまくいっているのでしょうか？

会社の運営方針・行動指針に準ずる街への貢献の実践

2 (1) あなたの仕事や生活の中でうまくいっていないことは何でしょうか？（課題がある、関係を改善する必要がある、等）

お金の問題

(2) それは、どんな原則に則っていないからうまくいっていないのでしょうか？

だいぶ改善されたが、思考の癖にもある気がする

新しいレベルの思考



P.42-L.13
～ P.45

(P.43) 「7つの習慣」とは、この新しいレベルの思考である。原則を中心に据え、人格を土台とし、インサイド・アウト（内から外へ）のアプローチによって、個人の成長、効果的な人間関係を実現しようという思考である。

(P.43) インサイド・アウトとは、一言で言えば、自分自身の内面から始めるという意味である。内面の最も奥深くにあるパラダイム、人格、動機を見つめることから始めるのである。

(P.44) アウトサイド・インのパラダイムに従った人は、おしなべて幸福とはいえない結果となっている。被害者意識に凝り固まり、思うようにいかない我が身の状況を他の人や環境のせいにする。

Work4

1. 本の冒頭にコヴィー博士の息子さんの例が出てきます（P.6、P.7、P.10、P.11）。この例でコヴィー博士夫婦が最初に持っていた見方は、どのようなものだったでしょうか。

親としての「私たちの見方」を通して、期待やこうなってほしいという親として子に求めることをある種押し付けてた

2. コヴィー博士夫婦はその後、インサイド・アウトのアプローチに転換していきます。具体的には見方がどのように変わっていったのでしょうか。

自分自身に目を向けることにし、息子を変えようとせずに息子の見方を私たちの見方でみりことをやめ、彼本来の価値をかんじとろうとした

3. あなたが置かれている状況の中でインサイド・アウトのアプローチに転換する必要のあることはどのようなことですか。

自分が「土」を耕し、やがて「花」となる。そのための覚悟を持つ

自己宣誓

今回の実践会を通じて、特に私が取り組みたいこと

レストランというステージで咲く「花」たちをもっと輝かせるために
私はその「土」を耕し、「根」を導く役割を担う。それは街への貢献という理念に準ずる。
